

平成 24 年度都市景観大賞への応募と優秀賞の受賞について

都市景観大賞【主催：「都市景観の日」実行委員会（事務局：都市づくりパブリックデザインセンター）】

良好な都市景観を生み出す優れた事例に対して、その実現に貢献した関係者を顕彰するとともに、広く一般に公開することによって、より良い都市景観の形成を目指す賞。都市空間部門、景観教育・普及啓発部門の 2 つの部門がある。

【都市空間部門】創成川通・狸二条広場地区

創成川通・狸二条広場地区は、札幌の都心に位置しており、地区の中心を流れる創成川は、大友亀太郎によって開削された大友掘を起源とし、開拓のための灌漑用水、水運といった産業を支える役割を担った歴史的遺産である。

創成川に沿って整備された創成川通には、札幌オリンピックを翌年に控えた昭和 46 年に 2 つのアンダーパスが整備されたが、都心へのアクセス交通と通過交通が交錯する地上部分では交通渋滞が多発していた。また、創成川通が東西市街地の分断要素となっていた。



アンダーパス連続化、親水緑地空間の整備、アートワーク事業

2 つのアンダーパスを連続化して創成トンネルを整備し、都心へのアクセス交通は地上に、通過交通は地下トンネルに分離することによって、交差点の混雑を緩和するとともに通過交通の速達性を確保した。また、騒音等の低減による都心環境の改善も図っている。アンダーパス連続化によって新たに創出された地上空間には、創成川の水や緑、アート作品に触れることができ親水緑地空間として、創成川公園を整備した。公園内は、東西方向の視線が抜けるよう植栽に配慮し、また、安全で開放的な水辺空間と、東西から円滑にアクセスできる広場を整備したことによって、公園に多くの人が集まって東西の人の流れを活性化し、東西の市街地をつなぐ役割を果たしている。



広場活用に係る連携・調整体制の構築、様々な主体によるボランティア活動

創成川には、北海道で最古かつ最大級の規模を誇る狸小路商店街と、古くから市民の台所として親しまれてきた二条市場が隣接しており、商店街と市場をつなぐ位置に、交流空間「狸二条広場」を整備した。広場の整備を契機に、商店街、町内会、札幌市によって「狸二条広場運営協議会」が設立され、広場の活用に係る連携・調整体制を構築し、広場の円滑な活用が図られている。

公園では、個人の応募による「公園ボランティア」や、団体や企業が自主的に活動する「外部ボランティア」など、多くの市民ボランティアが活動しており、清掃活動や、イベント時のスタッフ、公園ガイドなど、地区の景観形成とにぎわいづくりに寄与する様々な活動が行われている。

審査講評概要

- アンダーパスの連続化という都市内車両交通のネットワーク改善を図りつつ、併せて良質な歩行者空間ネットワークを達成している。
- 整備前の創成川沿いの並木が伐採されたことは大変残念だが、関係者によって全数保存に大きな努力が払われた末の、苦渋の決断であったことは理解出来る。緑に関しては、今後の育成を待ちたい。
- 創成川沿いの並木は、緑量は豊かであったが歩行者がアクセスできず、橋を横断するときに垣間見るだけのものではあった。むしろ、札幌市の東部を分断する壁となっていた存在を取り除き、東西南北のネットワークを作った価値は大きい。
- 整備空間は、精度の高いデザインが細部にわたり行き届いており、同種の景観デザインのモデルとなるにふさわしい。
- 今後、周辺の街並みや、都市内の歩行者空間がより深い関連を持ち、都市総体として成長していくことを期待したい。

【景観教育・普及啓発部門】子ども向け都市景観・都市計画普及啓発活動

札幌市では、都市景観を含めた都市計画のしくみやまちづくりのルールなどについて、楽しみながら学べる子ども向け都市計画普及本「ミニまち（さっぽろのまちがわかる小さな本）」を、平成18年度に作成した。

平成19年度からは、将来のまちづくりを担う子どもたちに、都市計画や景観に興味を持ってもらい、より深く理解してもらうために、次の取組を実施している。

まちなみ案内

小学生を対象に、市役所屋上や高層ビルの展望室から、都心部から周辺地域まで広がる札幌のまちなみを眺めながら、札幌のまちのなりたちや、現在のまちづくりのルールなどを解説している。授業の中で教科書や地図を通して学ぶ札幌のまちの特徴を、実際に眺めながら理解することで、まちに対する興味や関心を引き出すことを目的としている。



ミニまち講座

小学校の授業のなかで、まちのなりたちや、土地利用のルール、子どもにとって身近な学校周辺の様子などについて、地図や写真を使いながら解説し、その後模型を使った「まちづくり体験」を実施している。この学習から、札幌のまちの特徴や土地利用のルールについて学んでもらい、どうすれば住みよいまちができるかを考えることで、まちへの関心を引き出し、ひとりひとりの「まちづくり」に対する意識を高めることを目的としている。



まちなみ魅力発見プログラム

地域の児童会館を舞台に、まち歩きを通して地域にある魅力的な景観を探し、紹介してもらうプログラムを小中学生向けに実施している。自分達が住んでいる地域について詳しく知ることで、まちへの愛着や興味を引き出し、まちなみやまちづくりに対する意識の醸成を図ることを目的としている。



審査講評概要

- 「ミニまち講座」「まちづくり体験」は、土地利用のルール、美しいまちなみ、周辺との関係性への気づきと理解など、本質的な啓発活動である。
- 「ミニまち」は、大人でも理解困難な都市計画について、キャラクターを利用することによって、子どもたちのまちづくりへの興味を引き出している。
- 模型を土地利用図上に配置していく「まちづくり体験」では、都市計画部内の担当者の模型づくりなどの努力により、ミニまち講座の実施回数が増え、若い職員や担当者の研修の場にもなっている。
- 「まちなみ魅力発見プログラム」は、児童館やまちづくりセンターとの連携により一般市民への啓発へ、地域で子どもと大人が相互に学びあう関係に広がる可能性大である。
- 今後、教員への研修を重ね、小学3年生だけでなく5~6年生、中・高校生にまで啓発活動が発展していくことを期待したい。